

——高校生のための 街なかオープンカレッジ——

大学で学ぶことは何なの？ 大学の先に，社会や地域で何が待っているの！ 学生や市民も参加…



こんな本を書いた先生方が登場します

高校生の皆さんは，受験，進学に向かって，どのような大学や学部で学びたいのか，いろいろと考えていると思います。岐阜大学と岐阜経済大学が初めて共同で開催するこのオープンカレッジでは，こんなことを皆さんに伝えたいと思っています。

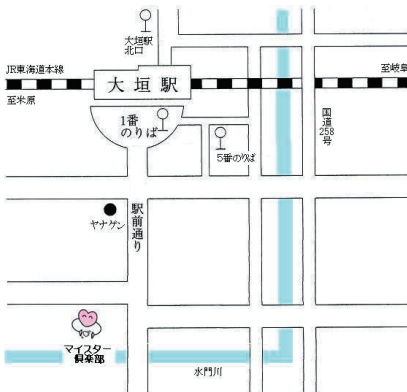
1 いろいろな分野から学んでいく意味：経済学・経営学，まちづくり・自治・環境・文化・社会

市場と人間，まちづくり，就職，エコロジーなどのテーマを取り上げて，いろいろな分野からの見方とその違い，討論などを通じて，高校までとは違う大学での学び方について，実際に体験してもらいたいと思っています。

2 大学から，就職，社会や地域に開かれていくために

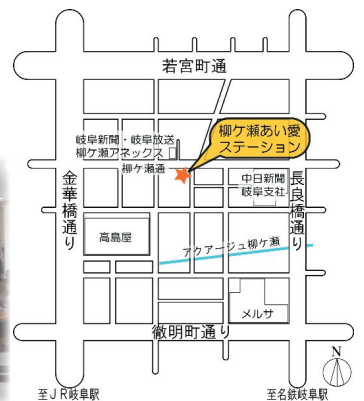
大学で学んだその先には何があるのか想像してみませんか。社会に出てから，就職はもちろん，コミュニティとどう関わっていくのか，もっと開かれた視点で見たらどうでしょうか。企業や市民の方々，少子化対策や若者定着などを図ろうとしている行政とも連携して，岐阜市・大垣市の中心市街地で，地域に開かれたオープンキャンパスを開催します。

3月26日(木)は大垣のマイスター倶楽部



大垣市東外側 2-6
広瀬第一ビル 1階

岐阜市柳ヶ瀬通 2-17



3月27日(金)は柳ヶ瀬のあい愛ステーション

3月26日と27日の2日間，2つの会場で，午前と午後，4つのテーマで開催します。

どちらへも(両方でも)，どのテーマでも自由に参加できます。

自分が興味のあることを，ここで見つけよう!

プログラム：2日間、午前と午後の講師のテーマと先生方

大垣／マイスター倶楽部会場：3月26日（木）	岐阜／あい愛ステーション：3月27日（金）
<p>午前の部：10時～11時半</p> <p style="text-align: center;">① 市場経済と人間の共感</p> <p style="text-align: center;">—アダム・スミス、ケインズを読み直してみよう—</p> <p>あいさつ：木村隆之 司会：鈴木誠（岐阜経済大学）</p> <p>■ <u>竹内章郎（岐阜大学・哲学）</u></p> <p>今の市場の問題を省みるために、商品のやり取りを支える人々の「心のやり取り」が、つまりは真剣な理性の働きと一体の共感が成立する「本来の市場？」について、経済学の父アダム・スミスの『道徳感情論』を素材に考えたい。</p> <p>□ <u>池永輝之（岐阜経済大学・経済学）</u></p> <p>リーマンブラザーズの破綻に端を発した金融危機は、アメリカにとどまらずヨーロッパ、アジア、日本を巻き込み、世界同時不況の様相を呈し、深刻な事態をもたらしています。</p> <p>80年前にも世界は大恐慌を経験しました。この大恐慌を通じて経済学は大きな変化を遂げました。一国経済全体を対象とするマクロ経済学の誕生です。マクロ経済学の創始者J.M.ケインズの著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』を手掛かりに、経済学とはどんな学問なのかをお話してみたいと考えています。</p>	<p>午前の部：10時～11時半</p> <p style="text-align: center;">① 岐阜の企業の魅力に迫る</p> <p style="text-align: center;">企業で働くということ—インターンシップと就職</p> <p>あいさつ：高橋 弦 司会：富樫幸一</p> <p>□ <u>竹内治彦（岐阜経済大学・社会学）</u></p> <p>この時間では、岐阜県に本社を置く企業の面白さについて、① 創業者精神と② ニッチ、という2点からお話します。以前、大学院の講義で岐阜県経営者協会から幹部社長の皆様に派遣いただき講義をお願いしました。その時、拝聴した興味深いお話を紹介します。また私自身、VENTURE Link という雑誌で「県内の中小企業は皇帝ペンギン」という記事を書いていて、この変なタイトルの意味を説明しながら県内企業について解説します。</p> <p>■ <u>伊原亮司（岐阜大学・社会学）</u></p> <p>地元岐阜の経済を支えている企業で労働者はどのような働き方をしているのでしょうか？ 職場の実態は、書いてあるモノを読んだり、働いている人に聞いたりすることで理解が深まりますが、本講義は、インターンシップやアルバイトを利用し、自ら働くことで見てくる職場のリアルな姿をお話します。</p>
<p>午後の部：13時～15時半</p> <p style="text-align: center;">② コミュニティと商店街の未来</p> <p style="text-align: center;">—芸術と文化によるまちの創造戦略—</p> <p>司会：富樫幸一（岐阜大学）</p> <p>ミニ講演：</p> <p>『元緑芭蕉で市街地まちづくり—大垣中心市街地の近未来』</p> <p>□ <u>堀 富士夫（岐阜経済大学副理事長）</u></p> <p>地方都市の市街地における空洞化が進んでいます。全国の多くの町で、その再生は大きな課題です。優遇政策を掲げ、企業誘致を進めるだけでなく、地域内再投資力を高め、人間都市として魅力あるまちにするためには、どんなことが考えられますか。</p> <p>中心市街地衰退の経緯や要因を解明し、狭義の中心街再生（商店街振興）にとどまらず、「持続可能なまちづくり」による「協働型コミュニティ」を社会目標に置いた社会経済システムのあり方について考察を進め、「地方都市・中心街のにぎわい再構築」、および「都心コミュニティ再生」の条件と可能性を展望してみましよう。</p> <p>具体的に、大垣における「芭蕉元緑ミュージアム回廊構想」を提案します。</p> <p>ミニ討論会</p> <p>◇ <u>平松和夫（NPO 法人まち創り）</u></p> <p>□ <u>菊本 舞（岐阜経済大学地域連携推進センター）</u></p>	<p>午後の部：13時半～16時</p> <p style="text-align: center;">② 環境とサステナビリティ</p> <p style="text-align: center;">—エコロジーとエコノミー—</p> <p>司会：鈴木誠</p> <p>□ <u>森 誠一（岐阜経済大学・生態学）</u></p> <p>環境問題を背景に、岐阜県を中心とした地域環境の特性からどういった取り組みができるのか考える。例えば、美濃地方には木曾川、長良川、揖斐川という大河川が存在から発生した水都思想が培われてきた。その北西部に形成された多くの扇状地を伏流した水は扇端で湧き水として地表に湧き出し、池や小川となっている。このことから、美濃地方は一大湧水群となっており湧水帯にもよって、より多様な淡水生態系を形作っている。このような「川国」美濃の特性を活かした水都復活を目指す新たな現代的な指針を、具体的な事例を取りあげながら議論していく。</p> <p>コメント：<u>向井貴彦（岐阜大学・生物学）</u></p> <p>■ <u>三井 栄（岐阜大学・経済学）</u></p> <p>「サステナビリティ」と経済学が果たす役割をめぐって、ゴミ減量から地球温暖化対策までさまざまな環境に関する問題について、経済学の側面から考察します。なかでも、炭素税や排出量取引制度などの環境政策を具体的に取上げ、その効果をみていきたいと思います。</p>

問い合わせ先：岐阜経済大学 企画広報課
 〒503-8550 大垣市北方町5-50
 代表：TEL 0584-77-3534 FAX 0584-81-7807
 kikaku@gifu-keizai.ac.jp

岐阜大学地域科学部
 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
 代表：TEL 058-293-3002 FAX 058-293-3008
 chiiki@gifu-u.ac.jp

申し込み用紙 （3月2日より20日まで、先着順で受け付け、余裕がある場合は当日参加も可能です）

高校	学年	参加予定（○を付けてください）		
氏名		26日	午前	午後
		27日	午前	午後